

編集室便り

歴史の目撃者が語る臨床工学の歩み

特集1：CEのはじまり編/特集2：医療機器のはじまり編

■編集室より

月刊『Clinical Engineering』は、お陰様で1990年の創刊から35周年を迎えました。本号ではその節目を記念して、臨床工学技士に関連する歴史を振り返る2大特集を企画しました。

特集1「CEのはじまり編」は、いまの臨床工学技士の制度や職種がどのように確立したのか、その変遷を辿りました。また特集2「医療機器のはじまり編」は、10年前に本誌で全9回（2014年10月号～2015年8月号）にわたって連載した「医療機器はじめ物語」のリバイバル特集です。各医療機器がどのように誕生し発展してきたか、また当時の機器にまつわる各著者のエピソードを交えて新たに収載しました。

■「医療機器はじめ物語」掲載内容一覧

- 第1回（2014年10月号） 血液浄化装置—より高い透析性能を求めて— 酒井清孝
- 第2回（2014年11月号） 人工心肺装置—心臓手術をより安全に行うための技術を目指して—
田中照久
- 第3回（2014年12月号） 補助循環装置—患者QOLのために駆動装置の小型・軽量化を目指して—
田中照久
- 第4回（2015年1月号） 人工呼吸器—患者への負担を減らす呼吸モードを目指して—
井上政昭ほか
- 第5回（2015年2月号） パルスオキシメーター呼吸・循環の情報を非侵襲に得られる画期的な技術—
久保田博南
- 第6回（2015年4月号） 心電図モニターより安定なモニタリング技術を目指して— 南雲潤也
- 第7回（2015年5月号） 麻酔器—安定した麻酔による安全な手術を目指して— 井上政昭
- 第8回（2015年6月号） 心臓ペースメーカー—不整脈治療を支える高機能、小型・軽量化を実現した技術の結晶— 豊島 健
- 第9回（2015年8月号） 除細動器—心臓突然死の救命に不可欠な装置— 相澤義房